

順次構造と基本的な処理 infomaticsI-024

教科書 p.168

順次構造と基本的な処理

- 処理がひとまとまりのブロック内で、上から順に実行される
- 変数
 - 数値・文字列などの値に名前をつけたもの
- 代入
 - 『=』で、右辺の値や計算結果を左辺の変数に渡す
 - 等しいという意味はない
(『 $x = x + 1$ 』のように記述することもある)
 - 共通テスト用プログラム表記・Python
 - $x = 1$

順次構造と基本的な処理

- 文字列

- 文字列はダブルクォーテーション『"』で囲み, 『+』で連結できる

- 共通テスト用プログラム表記・Python

- namae = "Takatsuji"

- yobikata = "Takatsuji" + "Sensei"

順次構造と基本的な処理

- 出力

- ()内に指定された値(数値・文字列)を表示する

- 『,』で区切って複数記述できる

- 共通テスト用プログラム表記

- 表示する("Hello World!")

- 実行結果

- Hello Wold!

- yotei = "mcdonald"

- 表示する(yotei, "に行く")

- 表示する(yotei + "に行く")

- 実行結果

- mcdonald に行く

- mcdonaldに行く

順次構造と基本的な処理

- 出力
 - ()内に指定された値(数値・文字列)を表示する
 - 『,』で区切って複数記述できる
 - Python
 - `print("Hello World!")`
 - 実行結果
 - Hello Wold!
 - `yotei = "mcdonald"`
`print(yotei, "に行く")`
`print(yotei + "に行く")`
 - 実行結果
 - mcdonald に行く
 - mcdonaldに行く

順次構造と基本的な処理

- 四則演算

- 足し算, 引き算, かけ算, 割り算

- 共通テスト用プログラム表記・Python

- x = 5 + 2 # 5と2の和(足し算の結果 7)をxに代入

- x = 5 - 2 # 5と2の差(引き算の結果 3)をxに代入

- x = 5 * 2 # 5と2の積(かけ算の結果 10)をxに代入

- x = 5 / 2 # 5と2の商(割り算の結果 2.5)をxに代入

順次構造と基本的な処理

- 整数除算

- 整数同士の割り算の商, 整数同士の割り算の余り

- 共通テスト用プログラム表記

- $x = 5 \div 2$ # 5と2の商(割り算の結果の整数部分 2)をxに代入

- $x = 5 \% 2$ # 5と2の余り(割り算の結果の余り 1)をxに代入

- Python

- $x = 5 // 2$ # 5と2の商(割り算の結果の整数部分 2)をxに代入

- $x = 5 \% 2$ # 5と2の余り(割り算の結果の余り 1)をxに代入

順次構造と基本的な処理

- べき乗

- 同じ数を繰り返しかけるかけ算

- 共通テスト用プログラム表記・Python

- x = 5 ** 2

- # 5の2乗(同じ数を2回かけるかけ算の結果 25)をxに代入

基礎練習

- 1. ハンバーガーの代金がburgerに、チーズバーガーの代金がcheeseに代入されている。チーズバーガーとハンバーガーの差額を表示するプログラムは次のようになる。

- 共通テスト用プログラム表記

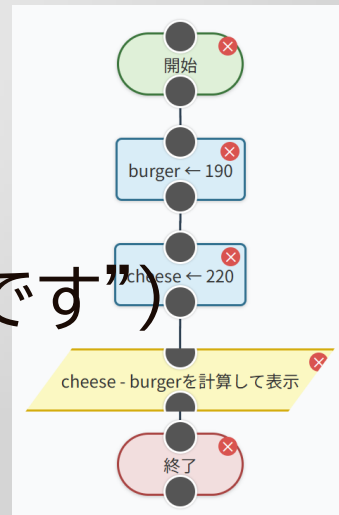
- `burger = 190`

- `cheese = 220`

- 表示する("差額は", `cheese - burger`, "円です")

- 実行結果

- 差額は 30 円です



基礎練習

- 1. ハンバーガーの代金がburgerに、チーズバーガーの代金がcheeseに代入されている。チーズバーガーとハンバーガーの差額を表示するプログラムは次のようになる。

- Python

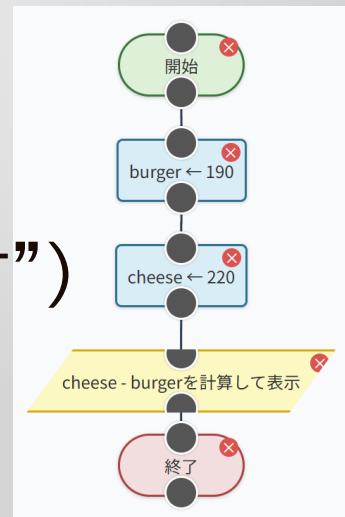
- burger = 190

- cheese = 220

- print("差額は", cheese - burger, "円です")

- 実行結果

- 差額は 30 円です



基礎練習

- 2. 2000円の所持金で480円のビッグマックをなるべくたくさん購入したい。購入できる個数と、そのときのおつりを表示するプログラムは次のようになる。

- 共通テスト用プログラム表記

- temochi = 2000

- bigmac = 480

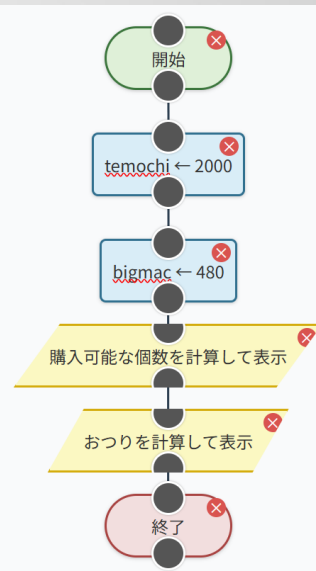
- 表示する(temochi ÷ bigmac, "個")

- 表示する(temochi % bigmac, "円")

- 実行結果

- 4 個

- 80 円



基礎練習

- 2. 2000円の所持金で480円のビッグマックをなるべくたくさん購入したい。購入できる個数と、そのときのおつりを表示するプログラムは次のようになる。

- Python

- temochi = 2000
 - bigmac = 480
 - print(temochi // bigmac, "個")
 - print(temochi % bigmac, "円")

- 実行結果

- 4 個
 - 80 円

